

平成 18 年 度
三センター共同研究
「若年認知症のケアおよび
社会的支援に関する研究事業」
報告書

認知症介護研究・研修大府センター
認知症介護研究・研修東京センター
認知症介護研究・研修仙台センター

まえがき

若年認知症は働き盛りの人に起こり、生活や家族への影響が大きいにもかかわらず、高齢者の認知症に比べて、その実態が明らかでなく、また支援も十分ではありません。

本人や配偶者が現役世代であり、病気のため仕事に支障が出たり、失職して経済的に困難な状況に陥ることになります。また、子供が成人していない場合は親の病気が与える心理的影響が大きく、教育、就職、結婚などと介護との両立が必要となります。介護者が配偶者に限られ、介護のため仕事が十分にできなくなり、身体的負担に加え、精神面、経済面でも大きな負担を強いられることになります。

このように働き盛りの人に起こる若年認知症は本人や家族だけでなく、社会的にも重大な問題であり、企業や介護の分野でもまだ認識が不足しています。そこで平成18年度、認知症介護研究・研修センターでは三センター共同研究として「若年認知症のケアと社会的支援に関する研究事業」を取り上げました。

今年度は、若年認知症とその家族の実態を把握し、基礎的なデータを得るとともに、ご本人や家族、介護者などからの要望や意見を収集しました。生活を確保するための経済的な支援、本人と家族に対する心理的支援、特性にあった介護サービスの充実、介護に携わるひとへの知識の普及と適切なケア・対応の確立、その指導および研修、人材の育成などを目標として、研究を進めてきました。また、若年認知症の具体的な症状や問題点を知らせていただくため、「若年認知症事例集」を作成して、調査に協力していただいた関係者などに配布し、啓発の一環としました。

この報告書の成果が若年認知症の方や家族、介護者にとって少しでも役立つものになっていれば幸いです。

アンケートや調査にご協力いただいた関係者のみなさまに感謝いたします。

平成19年3月末日

認知症介護研究・研修大府センター

研究部長 小長谷 陽子

目 次

- 1) 若年認知症のケアおよび社会的支援に関する研究 研究事業概要…………… 1
- 2) 愛知県における若年認知症実態調査(作業部会 A)
若年認知症事例集(作業部会 B) …………… 13
 小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 3) 若年性認知症の本人と家族が必要とする支援と社会資源調査(作業部会 C)…………… 77
 沖田 裕子(大阪市社会福祉研修・情報センター)
 山下 真理子(大阪市立十三市民病院)
- 4) 若年認知症者および家族に対するソーシャルサポートの実態把握
と資源の開発(作業部会D) …………… 112
 田中 千枝子(日本福祉大学)
 柿本 誠(日本福祉大学)
 北村 育子(日本福祉大学)
 駒田 雅己(日本福祉大学)

 スーパーバイザー
 小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)
 沖田 裕子(大阪市社会福祉研修・情報センター)
 尾之内 直美(認知症の人と家族の会愛知県支部)